

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072300268		
法人名	社会福祉法人 共立福祉会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	長野県諏訪郡下諏訪町東町中1-556-1		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日笑顔を引き出せるよう スタッフの持ち味を活かし明るく家庭的な施設にしている。利用者の出来ることを見極めその人らしい生活が送れる様に援助している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共立福祉会のグループホームとして、医療のバックアップ体制が整っており、利用者の希望する医療を支援すると共に、協力医との連携が図られ、緊急時の対応はもとより、重度化や終末期への方針の共有や支援が行われている。職員も安心した体制の中で自然体で受けとめ、利用者やご家族と共に人生の最後の支援をされている。昨年の外部評価後グループホームさくらの理念を見直し、職員全員でそれぞれの思いを話し合い、笑顔を大切にしたい理念を作り上げ、共有し実践されている。その他の改善も一つずつ前向きに取り組み、よりよいホームづくりを努力されている。ホームは町の桜の名所に近い高台に位置し、ホールからは眼下に町並みを望み、遠くに諏訪湖周辺が広がり、眺望の良さに目を奪われる。利用者にとって解放感が感じられ、日々の気分転換が得られるのではと感ずるホームである。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072300268&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市市上13-6		
訪問調査日	平成22年11月29日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で作り上げた理念なので、理念に沿うように努力している。	これまで共立福祉会の基本方針に副った支援をしてきたが、今年度理念について、職員一人ひとりの考えや介護の目標とすることは何か等の話し合いを行い、グループホームさくら独自の理念を6項目作り上げた。今年度はこの理念の実践に取り組まれている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お花見会などに招待しているが、出席される方がいない。	自治会に加入し区費を納入しているが回覧板は来ていない。隣接の町運営の施設へは庭を散歩させて頂いたり、行事の度にお誘いを頂き出かけている。隣近所へはホームの行事にお誘いをするが、参加が頂けず、日常的な近所との付き合いは苦心されている。	運営推進会議には町会長や民生委員等の出席を頂いているので、地域の一員として理解や協力を仰ぎながら、地域の情報を集め、普段から事業所が地域と行き来しながら暮らし続けていけるよう、また地域に出向いて行く活動や役割を担っていく努力を期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉会で認知症の学習会などは開催しているが、さくらとしてはまだ行ってない。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果は公表したが、特に意見は出てこなかった。	会議は年6回開催。町関係者・地域の代表者・地域包括・諏訪広域の担当者や家族代表・利用者等が出席され、ホームの状況報告や外部評価の取り組み等の報告を行い、意見を交換し、サービスに反映させている。またお便りを配布し、理解を得る等努力されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組めていない。	運営推進会議には町担当者の出席を頂いている。またケアマネジメント研究会への参加や介護相談員の受け入れを通じた協力関係を築いている。	自己評価でも積極的には取り組めていないとあり思案中である。利用者の暮らしぶりや取り組みについて伝え、関心を寄せて頂くことや、来訪して頂く機会や連携できる事項を探りながら、今以上に協力関係が築けるよう期待します。

外部評価結果(共立福祉会 グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しくは理解していないが、身体拘束をしないケアに努めている。予測されるリスクがある場合は家族に話し理解を得ている。	身体拘束をしないケアのマニュアルの整備やホームの環境を見直し、できるだけ自由な暮らしの支援に取り組まれている。建物の構造上の課題があり(9名の利用者が1階と2階に居住)死角が多く、ホーム特有の対応・工夫は欠かせない状況があり、苦心されている。	「身体拘束ゼロへの手引き」を基に職員全員で勉強会を実施し、身体拘束の禁止となる行為の理解を深め、支援の在り方や工夫できること・体制等について、利用者の視点でのケアの在り方を探り、見直しされていくよう望みます。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の学習会は行っていない。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加できていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書など一緒に読み合わせ確認をしている。疑問点があれば答えていく。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン時や面会時などに問いかけても、家族からは意見がなかなか出てこない。	話し易い雰囲気作りに配慮し、ご家族の来訪時や来れないご家族には電話や郵送で意見交換している。運営推進会議にはご家族の代表、利用者も参加されている。家族会はないが、お花見会・クリスマス会を一緒に楽しんで頂く機会を設け、運営に反映できるよう努力されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個人面接時その時々意見を聴き、管理者会議などで話し合い、取り入れている。	毎年1回、理事長・管理者と職員面接が行われている。毎月実施しているスタッフ会議は理事長も出席され、日頃から職員の意見や提案を聞き、皆で考え進める姿勢を大切にされている。また法人全体の管理者会議が行われ、運営に反映させる組織的な取り組みがなされている。	

外部評価結果(共立福祉会 グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の場を設けている。気づいた場合にはその場で指導している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組めていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり時間を共にして耳を傾けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの訴えをよく聞いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前サービスを受けていたところ(ケアマネ、訪看、デイサービス等)より情報を頂き、利用者にあったプラン作りをしている。		

外部評価結果(共立福祉会 グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、洗濯、掃除など一緒に行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花見などに家族を誘い交流の場を設けている。又家族が訪問された時には、邪魔をしないように配慮している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が連れ出してくれている。美容院などはお連れしている。	ご家族の来訪や外出を大切に捉え、関係が途切れないよう支援されている。携帯電話を掛けたり、通い慣れた美容院や地域のあちこちのスーパーへ出かけ、買い物を楽しむ等を支援されている。敬老会への出席は高齢化も影響し、ご家族と話し合いの上今年は見合わせている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が困っている時などに、他の利用者に声掛けや手助けをしてもらうように、職員から声を掛ける。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、しばらくは連絡を取ったり、自家野菜を届けてくれたり関係を保っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見を聞き、会議で検討している。	日々の支援の中で、職員が担当の利用者の思いや意向の把握に関心を寄せ、全職員が日々の申し送りノートや連絡帳に記し、共有を図っている。またセンター方式のツールを使い、一人ひとりの思いの把握に努め、スタッフ会議等で検討がなされている。	

外部評価結果(共立福祉会 グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から情報を得て、ケアプランに取入れている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況観察をし、その状況に合わせ介護している。また、大きな変化の場合はスタッフ会議で検討している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	反映させている。	計画書は、センター方式の様式を基にケアの在り方を探り、介護計画作成担当者が作成している。毎月開催のスタッフ会議で意見交換し、ご家族・関係者等の意向を踏まえて作成し、評価や見直しが行われ、現状に即した支援が行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時々の利用者の体調や状況に応じ、スタッフ間で話し合い、即実行している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の状況に応じ、対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流がないため取り組めていない。		

外部評価結果(共立福祉会 グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援出来ている。	本人・ご家族の意向に副ったかかりつけ医となっている。日常の健康管理は協力医が毎月1回往診すると共に、緊急時の対応や認知症専門医との連携が行われ適切な医療を支援している。皮膚科や眼科受診の場合はご家族の協力を頂くが、職員の付き添い支援もされている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援出来ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に話してみたが「今の段階では分からない、そうなった時に判断したい」と言われている。看取りの指針は作成済み。	今年度「看取りケア指針」「看取りケアについての同意書」の整備が出来、指針に副った看取りケアが行われた。医師の指示・指導の基に、ご家族への説明や同意を得て、職員が自然体で受け入れ支援された旨を伺った。利用者の居室への見舞いや全員でお見送りをされている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が実践力を身につけていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築けていない。	今年度スプリンクラーの整備が完了。台所は電磁調理器を使用している。年2回の火災避難訓練を実施し、職員が通報や避難誘導が適切に行われるよう訓練し、身につける取り組みが行われている。地域の消防団や区・近隣住民との協力関係は築けていない。	何時発生するか分からない様々な災害に備え、消防団や地域住民の理解や協力を得て、日頃から内部の状況を把握して頂き、いざという時に備えて行かれるよう、また隣接の町の施設との協力関係づくり等の取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時々見受けられる。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、受容する姿勢を持ち支援に取り組み、名前の呼び方、トイレへの声かけや対応等、利用者の誇りやプライバシー確保に留意されているが、時として急かしたり、声の調子がかつめになってしまう等を見受けると自己評価している。	日々の支援の在り方や職員一人ひとりの言動について、職員間でチェックし合う仕組みを探り、活用する仕組みや、日常的に気づいたら、その場で互いに確認したり振り返り、何気ない言動の意識化を図る取り組みを期待します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけが来ている。(寝たい、起きたい、外出したい、献立など聞いている)		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	完全には沿えていない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院へ行ったり、訪問美容を利用している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常に出来ている。	週2回利用者と共に買い物に出かけ、要望を聞き食材を購入する。その日毎に献立を決め一緒に調理や配膳等を行い、職員も共に食卓を囲んでいる。菜園作りや、季節毎の楽しみ(おはぎ・流しそうめん等)や車椅子の利用者も一緒に外食に出かける等の楽しみ支援がなされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	この夏は、特に熱中症対策とし水分摂取(1500ml/日)を実行していた。		

外部評価結果(共立福祉会 グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実践できている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援出来ている。	排泄のチェックシートに日々の支援を記し、排泄パターンの把握を行い、個別の対応がなされている。トイレでの排泄を支援しながら、利用者の身体状態に応じて夜用・昼用、パンツタイプ・パット類の組み合わせ等の工夫をされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日課表に基づいて支援しているが、本人の希望に沿って日時をずらす事もある。	基本的には週2回(夏季は3回)、午前中に入浴して頂いているが、職員体制が整っていれば、利用者の要望に応え、時間をずらす等の臨機応変な対応も行っている。家庭的な風呂場で、仲の良い利用者同士で入浴されることもあると伺った。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援出来ている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員は把握できていないが、利用者の変化の確認は出来ている。		

外部評価結果(共立福祉会 グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いが持てるよう。食事作り、掃除等行っている。気分転換に散歩やレクリエーションなど行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ADLの低下で全員参加が難しくなってきたが、出来限り外出できるよう支援している。	ホームの立地環境上(傾斜地にあり)、日常的な散歩や外出は困難さがある。隣の特養施設の了解を得て庭を散歩させて頂くことがある。その為、車での外出を意図的に多く取り入れている。共立福祉会の車で車椅子の利用者も一緒に外食やドライブ等を楽しまれている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物ツアーなどで自分でお金を持ち、食べたい物を買う機会を設けている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。	台所・居間・食堂が一体的なホールとなっている。日当りの良いホールから外の景色が一望でき、移りゆく季節が感じられ、花やつるし柿を眺めながら会話する姿が見られた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に工夫はしていない。		

外部評価結果(共立福祉会 グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人家族に任せているが、無理な場合には相談しながらスタッフが行っている。	居室の入口は表札替わりの名前を掲げている。ベッド以外の布団や家具は使い慣れた物を持ち込んで頂き、和床で過ごされる利用者も居て、利用者やご家族の意向に副った居室の配慮がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や風呂場、トイレなどに案内板を張ったり、手すりなどを付けている。		